



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第33号 (H24. 2. 15)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

しつ じつ ごう けん
質 実 剛 健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



「立志式」

歩む～未来は
自分で切り拓く～

2月13日(月)に附属中学校で立志式が行われ、2年生が決意表明をし、1年生や保護者がこれを祝いました。式典では前宮崎県知事の東国原英夫氏が立志式記念講演を行いました。この立志式は附属中開校2年目にあたり初めての式典で、今後伝統の儀式にしたいと思っております。立志式は、はじめの頃は「立春式」として、立春の頃に人生の節目



になぞらえ、14歳の2年生が昔の元服の儀式にならって、子どもから大人への自覚を持つ儀式として行われたものです。のちに、立志式と改称して、儀式の性格をより明確にし、今も伝統の儀式

として継承されています。2年生は、「立志、勉強、自主、友愛」の4つの決意を全員で表明しました。「立志」では、「自らを愛し、可能性を信じて開拓し、目標を高く掲げ、その実現に向かって取り組むことを誓います。」と全員が声を合わせて朗唱しました。「勉強」では、「謙虚であることと懸命に努力を重ねることの大切さを知り、困難に立ち向かう姿勢を培う。」、「自主」では、「自らを見つめ、じっくり考え、正しい判断力を養い、責任を持って行動する。」、「友愛」では、「自分のまわりの人やものを大切にするとともに、想像力を高め、他者を思いやる。」と誓いました。これらの決意表明の内容は実に素晴らしいとあらためて思いました。50分の式典の間、2年生はもちろん、1年生は身じろぎもせず姿勢を正し厳粛な雰囲気であったことにも感心しました。本村PTA会長からは「(中略)私達にとって秘めた思いと云うものは、ともするとそれだけで揺るぎないもの、完成しているものと誤解しがちです。ですから、今日の立志式では周囲に対して、自らの成長の証を示すという大切な使命もありますが、加えて、自らが、それを声や文字にして表現してみる事で改めて自身に問う、という事を意識して下さい」と励まされ、東国原英夫前宮崎県知事からは、講演の中で多くのメッセージを残されました。「学問は武器、最大の武器となる」「今自分が何をやらなければならないのか、決めたことをやるためのプロセスが大事である」「縦割りの人生設計」「悩んでいるうちに答えは出てくる」と……東国原氏自身も政治を変える、地方分権の世の中に変えるなど熱い情熱を感じることができました。最後に、自分は都城泉ヶ丘高校出身という大きな誇りを背負い頑張っていきたいと……**がんばれ！2年生、がんばれ先輩！**

立志式に向けてのテーマ「歩む ～未来は自分で切り拓く」について、榮福和希くんから……

私たちが立志式に向けてあげたテーマは、「歩～未来は自分できりひろく」です。「歩」とは、自分の意志をしっかりと、夢に向かって前進していくということです。振り返ってみると自分でなくてはいけないこと、自分でできること、そんなことを面倒くさがり、親や学校に頼りすぎていることが多くあります。今、ここで立志式をきっかけに、親や家族に頼りすぎていることを反省し、自分で行うという強い意志をもちたいと思います。その意志をもって、一歩ずつ前に進んでいくことが大切だと思います。そして、「立志式」を有意義なものにして、未来を切り拓く力強い第一歩にしたいと思います。



理科授業研究会

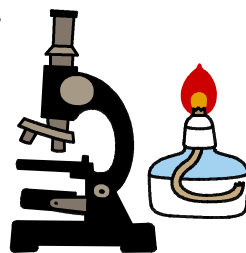
～東京大学コンソーシアム「協調学習」～

2月13日（月）に附属中2年生で黒木亨

先生による理科授業研究会を開催しました。

立志式のあと2年生は新たな決意のもと、

協調学習による理科の授業に臨みました。北諸管内の理科の先生方も集まりました。単元名は「力と運動」で、授業のねらいは、協調学習（ジグソー法）による学習を通して、水平投射による物体の運動の様子を理解させ、物体が床に落ちる時間を求めさせるものです。授業の柱となる課題は、①「2, 4 m の高さから、小球を水平に打ち出したとき、何秒後に床に落下するのか？」②「小球を打ち出す



速さを2倍にすると、床に落下する時間は、何倍になるのか」でした。東京大学からは、齊藤萌木特任助教授に来ていただき、授業の指導講評と講義を受けました。先生の講義の中で、協調学習における子どもたちの声（アンケートから）が紹介されました。それは、「自分たちで考えて答えや説明を出すのが楽しかった」、「他のグループの意見が分かるし、自分たちのグループとちがう所がわかるのでやりたい」、「少人数で問題を解くのと大勢で解くのでは、少人数の方がゆっくり自分たちのペースで解ける」、「ちがう人の意見を聞いて新たに問題を解くのが楽しい」などがあり、附属中の生徒も同じような感想が今までの協調学習の中で多くありました。また協調学習を実践している先生方の声からは、「記憶の保持がよい。ジグソーの授業の4か月後に、『理由を説明せよ』という形で同じ課題を出してみたら、すごく細かいところまで残って驚いた」、「単元の導入でジグソー法を使うと、その後の授業の子どもの興味や関心の度合いが高くなり、理解を深めることができる」、「自分で伝えるという活動を繰り返すと自尊感情が高まる。その次に人の意見を聞くようになるので、お互いの関係性がよくなって学習の基盤、学校生活の基盤ができる」など、本校でも共感できる所が数多くあります。

協調学習とは？

－協調学習は、グループ学習ととらえがちですが、そうではありません。単にグループで話し合わせたり、生徒が自由にテーマを選んで調べたことを発表し合うだけでは、協調学習を引き起こすことは難しいのです。つまり、「他者の多様な考えを統合して自分の考えを深め、自分なりの納得を獲得する」には至らないのです。協調学習を引き起こす手法つまり「知識構成型ジグソー法」です。

